

中世曹洞宗切紙の分類試論 (一)

一、はじめに

我国の禅宗の歴史、特に教団展開という面において注目される中世曹洞宗の実態に関しては、解明されなければならぬ多くの課題を残している。すなわち、教団史の中でも特に中世の地方展開の要因に関する種々の問題や、思想史に関する問題、たとえば、中世曹洞宗の公案禅の実態について等の問題である。筆者は現在、中世禅宗史研究のための文献史料として、禅籍抄物資料を集中的に扱っているが、それは、如上の教団史、思想史の双方に関わる問題の解明に、抄物資料が果す役割は極めて重要であるとみる作業仮説に基づく⁽¹⁾。ある意味では、中世禅籍抄物資料は、中世禅宗史解明の鍵をにぎっているとも考えている。この点に関してはすでに多少の論稿を試みたこともあるが、⁽²⁾ 今後は、資料調査を主体とした、さらにキメ細かな考究が要請されよう。

石 川 力 山

ところで、禅籍抄物資料とは、禅僧達の手によって成立した、禅に関する漢文あるいは仮名書きの注釈書類全般を指すが、曹洞宗関係の抄物類は、他の五山派のそれと区別するために、「洞門抄物」と呼ばれることがある。⁽³⁾ この洞門抄物と呼ばれる一類の文献の内容は、極めて種々雑多なものを含むものであるが、それはおよそ次の五種類に大別されよう。

(1) 語録抄(聞書抄) — 禅宗典籍類の注釈書で、講義提唱を聴講者がそのまま筆録したものが多く、その意味で聞書抄とも呼ばれる。

(2) 代語・下語 — 古則公案や機縁の語句、重要な詩句等に著語、下語の形で注したもの。

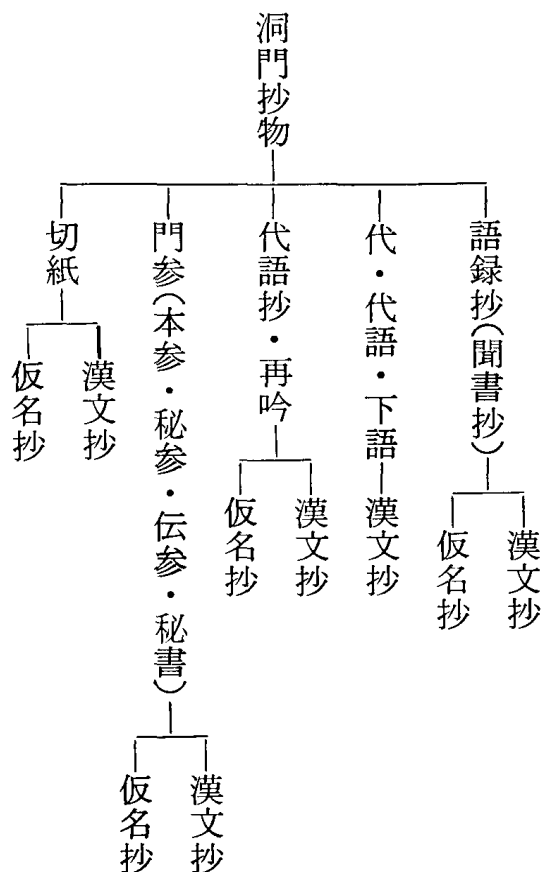
(3) 代語抄・再吟 — 代語や下語の出典や字義を詳しく注釈したもの。

(4) 門参(本参・秘参・伝参・秘書) — 中世における入室参禅の手引書。室内における師家と学人の問答応酬の

仕方や、公案解釈の方法を書き留めたもので、各門派毎に独自の参禅の仕方が伝承された。臨濟宗では密参録、密参帳といわれる。

(5)切紙—嗣法三物に関する口伝や、種々の儀礼、在家法要、宗旨の秘訣等を、一項目毎に一枚の紙に書いて秘密伝授されたものであるが、後には冊子の形にまとめられたものもあらわれた。

以上のような内容を持ったものを洞門抄物と総称するが、これを図示すれば次のようになる。



本稿で問題とするのは、これらの中の切紙資料についてだが、後に述べるように、この切紙資料そのものの内容が、やはり種々雑多なもので、他の抄物資料とともに、従来、本

格的な研究は殆んどなされていないといってよい。

曹洞宗における切紙の研究を行うに当って、まずなされなければならぬことは、その発生に関する考究である。周知のごとく切紙は、形態的には曹洞宗に特有のものではなく、口伝法門を重んずる天台宗や真言宗にやはり同様の形のものがある。修験道や神道にも切紙の伝授相承相がある。さらに言えば、古今伝授のような歌道にも切紙はあるのであり、総じて言うなら、切紙の形で口訣や秘密法門を伝授するのは、秘密伝授を尊ぶ学芸などの風潮を反映する、日本中世社会そのものの持つ大きな性格の一端であったということができよう。したがって、問題となるのは、その内容についてである。もちろん史料批判の上からは、個々の切紙の原初がいかなるものであったかという問題は絶えず問題にしなければならないが、その発生如何にかかわらず、これが教団の展開の中で確実に機能していたという視点も忘れてはならない。切紙資料が、中世曹洞宗教団の展開を考える上で必ずや問題としなければならないと言ったのはその意味であり、特に地方展開をしていった教団が、地域の民衆層に受容されたとするなら、必ずや宗教受容の基層となる部分との接点が必要ならぬ。そしてそれは、死者儀礼などを中心とする儀軌、呪術、祈禱、神仏習合、吉凶、卜占といった、極めて現実的な要請であったに違いない。そして、切紙資料には、室

内や宗旨に関するもの以外に、これらに関する内容を持ったものが多数あるのである。ただし、記録そのものは教団側で記録されたもの、つまり、あくまでも民衆側からの要請は前提としない、一方的な記録であることに変わりはないが、少くとも民俗の立場でしか宗教を受け容れられない民衆との接点を探る目安にはなるであろうと思われる。

すでに述べたように、抄物資料も含めて、曹洞宗における本格的な切紙研究はまだ殆んどなされていないといつてよい。切紙資料の性格の一端として、それがいかに古い伝承、正しい相承を経て来ているかを主張する点があげられる。それは、時には道元直伝のものとかれたり、さらには如浄にまでその伝承が要請されることがある。そうした記載を妄目的に信ずることは勿論できないが、そうした切紙が生み出されなければならなかった理由も併せ考慮する必要がある。切紙研究の困難さは、そうした矛盾を内包する資料をいかに判断するかという点にある。

切紙研究の困難さの第二点は、資料蒐集の問題である。特に、切紙の名が示すように、それは一項目一枚毎の個々別々のものであり、極めて散逸し易く、特に筆者が課題としている中世切紙は、伝承保存されている例は極めて少く、その全体像は容易に把握し難い。中世末から近世初頭になると、切紙も集成される傾向が生じてきて、冊子にまとめられて伝承

される例も出てくるが、中世末、近世初めの頃の例は極度に少い。近世も寛永期になると切紙の量も一挙に増加し、現存する原資料も圧倒的に多くなるが、もはや中世切紙との区別はつかなくなる。

以上のべたように、中世における切紙資料の持つ意味は極めて大きいことは理解できると思われるが、確かな伝承を持った資料が与えられていないという難点がある。⁽⁴⁾本格的な切紙研究のためには、確実な伝承を持つ、出来るだけ古いテキストを集成する必要がある。本稿はそうした意図のもとに、これまで筆者が資料調査や資料の貸与を受けて蒐集したもののなかから、「中世切紙」として位置付けてよいものを翻刻し、併せて史料批判やその歴史的、思想的意味をも考察しながら、基礎資料の確立を期そうとするものである。ただし、現在も切紙類や抄物資料一般に関する史料調査は継続中であり、貴重な資料が発見できればその都度追加の形で補充していくことになるであろう。

二、切紙資料の種類

このようなわけで、今後何回かに分けて中世曹洞宗の切紙資料の紹介をして行くことになるが、その前に、一応の見通しとして、切紙とはいかなる内容を持ち、どれぐらいの種類があるかについてのおよその輪廓を把握しておく必要がある。

り、ある程度の分類作業を経た上で、その分類にしたがって資料紹介をしなければ收拾がつかなくなるであろう。そこで、まず中世切紙には何種類ぐらいあるかについてであるが、前述のように、中世切紙で現存するものは極めて少く、またそれが一括して所蔵されていることはまれであり、ある程度の枚数が揃っていても、それがすべてであるかどうかは確めようがない。戦国末以降になるとそれが集成される傾向が生じて、一本にまとめられる場合も出てくるが、それらも数は極めて少いものである。また、後述するが、杉本俊竜著『洞上室内切紙并参話研究』⁽⁵⁾は、切紙研究の唯一の書としてよいものであり、切紙を九種に分類して、百三十五種の切紙を紹介解説しているが、分類や出典等に問題があり、網羅的ではないきらいがある。そこで、近世江戸期の資料になるが、江戸初期頃から、切紙の目録が作成されるようになり、管見に入ったものでもすでに数種あるので、これがそのまま中世切紙ではあり得ないが、中世切紙も含んでいるという意味で、次に紹介しておく。

まず、能登永光寺に所蔵されている『截紙之目録』であるが、これには三百五十三種の切紙名が記載されており、面山端方は四百余种の切紙を見たと言っているが、具体的な数においてこれより多い目録にはまだ接したことがない。体裁は巻紙で、二段に切紙名が列記されている。成立については、

中世曹洞宗切紙の分類試論(一)(石川)

巻首に「臨松謹書」とあり、この臨松は恐らく、永光寺輪住四百七十九世万山林松と同一人と見られる。林松は輪住の年月は不明であるが、前後の輪住者(たとえば四百七十七世鳳谷呑堯は寛永九年八月十五日、四百七十八世然花□廓は寛永□九月廿三日)からみて、およそ寛永十年前後の人とみて大過ないものと思われ、永光寺輪住中にこの目録を作成したものである。その全項目は次のようなものである。

截紙之目録

臨松謹書

御大夏之上大夏

大儀規、菩薩戒作法トモ云々、小儀規、受經之作法、嗣法論、伝戒并嗣法儀式、同勃陀勃地参、七佛伝授儀式、蓮華宝蓋切紙同嗣書ノ地ノ参トモ云、嗣法伝戒儀規、達磨一心十戒切紙、七佛伝授切紙、松竹梅之切紙、酒水切紙、自家訓訣拜門ノ御書トモ云ナリ、采西記文録光明ノ図トモ云々、堪忍之判形、堪忍之判、堪忍之判形図、雲形図、鉄漢之切紙、摩頂之式法、伊勢二字、嗣法合血図、国王授戒血脈、国王授戒作法、大姉切紙、居士之血脈、同小切紙、居士嗣書、居士紫上切紙、居士四徳切紙、居士大血脈、居士一句当的切紙、居士燃灯授記マカミ、居士参、同授戒作法、居士一通参話目録、拈華之切紙、拈花之図、同切紙、同相承念記、同切紙、同相承念記、亦拈花図、拈花頂王三昧十三種ノ儀式、同添物十則、同十三種添物参、同付嘱之切紙、同妙心大事、中道三昧、他家訓訣、六祖半紙、六祖同大事、百丈野狐切紙、阿誰之切紙、刹竿諾切紙、因果切紙、万機休罷切紙、趙州無切紙、同本

無切紙、同無大事、三十四話切紙、鉗斧子切紙、香殿樹上切紙、同金斧切紙、同樹上切紙、趙州四門切紙、不可得図、世尊端坐切紙、十八般妙語、同參禪、龍天勘破話、同血脈、同三位、同切紙、光明真言、水神授戒大事、光明之図本佛無上大、事ト云々、水神授戒血脈、同光明注、大事、念佛之切紙、同六字大事、水神授戒血脈、竜天授戒本形二通、同授戒作法、并國王授戒作法、同授戒嗣書、同授戒切紙、同授戒儀式、白山妙理図、同切紙、鎮守切紙、同參、那事三人、血脈相伝之大事、法報応之三身、血脈下段大事、同作法參禪ノ一問トモ云、伝授後、同大事、頂相大事、不生不滅大事、同切紙、嗣書焼却切紙、先師取骨切紙、同焼香大事、善智識切紙、母子別服切紙、尊宿茶毘次第、合封之図、合判之切紙、証浄訓訣、六祖伝授之切紙、両鏡之図、問訊之大事、孝田大事、伝授參六様、下炬靈供取名參、約速參、四句文之切紙、四門三匝切紙、下炬之切紙、同參禪、炬之切紙、下炬大事、同炬法、曹洞機之切紙、同大事以上六通、念誦之切紙、且望伝戒礼、上来切紙、祝聖之切紙、焼香儀式、勤行之切紙、順堂儀式、記請案文、爵書龜鑑、同參禪、印肉之作法、鷓鴣字之切紙、塔婆点眼、安座点眼、同參禪、亡靈授戒、同亡靈沈淪大事、廟之移切紙、河奈根本切紙、作僧之儀式、没後作僧話、同切紙、一辺消災咒切紙、同消災咒切紙、佛知死斯、達磨知死斯、同血脈、施餓鬼大事、同作法、尊勝陀羅尼參、同切紙、三宝印切紙、同大事、御即位灌頂法血脈ト、二句偈之嗣書、三國相伝、之職位ト、同順逆無碍印參禪ト共ニ、同御大事、同嗣書六觀音、秘密ト、頂門眼切紙、頂門眼參禪トモニ、天台相伝ト、同血脈、普所之大事迎文勒ノ三、説トモ云、達磨ヨリ、這、那之參、觀音秘密血脈、不識上之話、鑰子之參八句ノ切紙トモ云々、正法眼切紙、正法眼三星図、印形之図夜參ノ血脈トモ云々、同付囑切紙、生十界之

切紙、同死十界、以心伝心之図、十來之図、一本劔切紙、一身分上切紙、一心三視切紙、勃陀勃地切紙、梁字大事、同參禪、三國伝灯、血脈、山門切紙、七堂之切紙、不狐之切紙、御大事切紙、御大事添状二通、三位切紙、三朝切紙、三裡切紙、月兩箇、大陽三段、宝瓶之切紙、拄杖切紙、扠子之切紙、竹篋切紙、飯船之切紙、釈迦之形、鉄鉢之切紙、大光錢図、大平錢之図、嗣書、看經、月江之置文、三門之話參、九龜話之參、出世不出世話、位裡点側、阿弥陀三字、空仮中三体、法報応三身、大魔境図、廿一社巡礼次第、血脈袋図、袈裟袋図、永平坐具文、達磨三心之図、護袋之大事、五大老切紙二通、三悟道之切紙、磨盤図二通、満字本形、同大事、満字切紙三通、參禪ト、山居血脈、同嗣書、同判、同切紙、同參禪、同了畢判、同赦面様子、非人之血脈、住吉五ヶ条、応量器、臨齋宗血脈、伝法興效、宝鏡三昧、同三昧図、空尽書、七佛伝授切紙、過去心字、血脈、即通之參、天竺一枚反故、天竺一枚紙七仏以前、一枚紙、三國流伝切紙、氣血図、勃陀勃地切紙、七佛骨隨、心空図、身心脱落切カミ、非人授戒作法、伝授之作法、十哲附属次第、拜問記、面授之一紙、普賢十願并開釋偈、十佛名切紙、勃陀地図、梅山一枚紙、大源極位之摺、他山之切紙、衣鉢血脈、大事、御守祈禱、勃陀勃地之參、安座点眼、露柱之図、最極無上大事、三位之目録、峩山一枚法語、同參禪、江湖首切カミ、輪關之參、没後、円相參、三宝印參、両円參、合封參、同合判、勃陀勃地參、伝授首尾參、教授之參、戒文之參、齊家嗣書、十三佛之切紙、牛窓櫃之切カミ、悉曇之大事、血脈下段之參、六祖伝授之作法曹溪伝授トモ云々、曹溪伝授之參、念誦切紙、無縫塔切紙、八識之図、臨齋家嗣書、月兩ヶ切紙、三物頂戴參、二句偈大事、五位之図、高

上一窮、了畢判、契約之切紙、第一頭之切紙、宗門三ヶ行治、嗣書之切紙、祝聖之切紙、優婆耄多由来、三宝印口伝、傳授之切紙、判之六点、五位君臣図、末後付属、摩頂守護參、居士掛落大事、同掛落許、伝授道場莊、同看経目録、同了畢判、靈山伝授次第迦葉代々明、峰正伝、牌答切紙通、吞却吐却、合血之図、諸聖之法位、火滅之大事、大小円相之參、灰之參、畜生授戒、了畢判形、了畢判形図、白紙之大事、法衣之切紙、擊竹悟道、三世不可得、托鉢下堂、大随焼蛇話、十三佛之大事、智識正眼、碧巖了畢切紙、劔刃上本則參、兵法九字之大事、天台輪袈裟切紙、一大事秘マツ、注、礼拜之切紙、遍界不識參、独鈷之切紙、三蔵般若箱之緒、円覚之切紙、宗門三十四話。

一読して知られることは、重複しているものがいくつも見られ、また「二通」「三通」「四通」等の書込も見られ、これが単なる項目一覽ではなく、ある意味での現存目録、つまり禅院における交割帳的性格もあわせ持っていることが知られる。また、「同参禅」と記される場合も多数見られ、門参資料がそのまま切紙に変形したものが多数あったことが知られる。抄物資料の中の門参資料と切紙資料とは、特に参話切紙は関係深く、いずれ項を改めて検討するつもりである。

永光寺の「截紙之目録」と同様に、現存目録的性格を有する目録に、永平寺所蔵の古文書類の中にある「切紙門参目録」(仮題)がある。やはり同じく巻紙に、一行一点ずつ記載されている。永平寺の目録の特徴は、百六十六種の切紙を列

記した後、「参禅卷冊覚」として、別に二十二種の門参資料の目録を附記していることである。これらの門参のうち、たとえば「大儀小儀」や「三十四話」は、永光寺の「截紙之目録」にも記載されており、「大白峰記」なども普通は切紙の一種とされているものである。⁽⁸⁾ 永平寺における入室参禅の方法について記したものととして「吉祥山永平禅寺絵目録」があり、二百三十七則の公案を二十四段階に分けて参禅すべきことを規程しており、⁽⁹⁾ 上記の二十二則はこれとは別箇に扱われており、むしろ切紙類の中でも、一枚書のものではないものだけを別箇に記した感がある。したがって、厳密な意味での切紙参話類の数は、二十二種を加えた百八十八種とみてよいであろう。さらに、この目録が作成された時期については、末尾の朱印から、永平寺三十世慧輪永明禅師光紹智堂(二六一〇〜一六七〇)の代であったことが知られる。目録に記載されたものは次の通りである。

一竹篋切紙、一手形事、一露柱切紙、一知識三々行、一祖師禅切紙、一無住相、一宗門五図之参一通、一宗門四字参一説有之、一施餓鬼切紙、一九識円備、一両鏡之図、一七佛直伝印心、一道元十三則目録、一念佛切紙、一知識上参、一頂門眼切紙、一誰十八則勘破図添、一拂子、一永平宝鏡三昧図一通、一米門之切紙、一正伝始末切紙、一天童一紙大事、一先祖廟移切紙、一先師取骨大事、一卍字之図、一臨終五問答、一耳口之偏血脉、一住吉大明神之切紙、一光明之迷、一涅槃之作法、一大白峰記、一人々具足

図、一合封之切紙一通、一山門之図一通、一上来之図、一伝儀加
 行、一御大事看経回向、一七佛伝授作法、一洒水室中秘伝則是訓
訣也、
 二通、一佛々相伝戒法、一多子塔前伝附作法、一七佛嗣承道場莊
 嚴切紙、一伝法儀軌、一血脈道場儀式、一伝法儀式、一伝底作
 法、一道場莊嚴図、一道場儀式、一伝授道場次第、一御開山伝法
 儀式、一道場莊嚴儀式、一授戒之作法、一七佛伝授戒法一枚書、
 一法嗣儀記、一伝法儀式、一嗣書伝授儀記、一嗣法論、一永平寺
 参禅切紙目録、一血脈袋大事、一問訊之大事、一三十四話切紙、
 一宗門十八種劔、一没後作僧切紙、一安座点眼四通、一六祖半紙
 図一通、一嗣書焼却大事二通、一正法眼蔵切紙四通、一十八般妙
 語、一山門法衣大事、一一條紅線、一住山之大事、一八師之次
 第、一達磨知死期秘密、一鉢孟之切紙、一龍天勘破図、一日用行
 事作法、一采西記文、一嗣法論始終、一三悟道一位図、一牌当之
 大事、一四十九之本位、一四句之文切紙、一衣鉢血脈作法、一天
 竺一枚紙、一三老普門大事、一三國一位図、一永平一枚蜜語、一
 四処半夜図、一二度伝授、一嗣書地絹之様子、一法衣伝授参、一
 袈裟之大事、一襪子之切紙、一佛頂上円相切紙、一鷲鷲切紙、一
 御影切紙、一勃陀勃地切紙二通、一宗旨秘書、一住持焼香切紙、
 一曹洞八圈図三通、一白蛇之切紙、一漆下之御大事、一松竹梅之
 切紙、一林際曹洞兩派血脈、一鎮守之切紙、一靈供之秘極、一
 最極無上之大事、一拈奪瞎之切紙、一戒文参二通、一香嚴樹上切
 紙三通、一劔刃上之切紙、一拈花微笑之図七通、一非人亡者結縁
 大事、一十三佛之切紙、一善知識切紙、一嗣書相伝卷、一達磨一
 心戒儀同十戒之図、一祖師禅切紙、一文殊手内一卷経、一采西僧
 正記文録、一七佛血脈図二通、一達磨三安心図二通、一九六三之

大事、一白山妙理大権現切紙三通、一一中十位抄、一応身之録、
 一濟下印可切紙、一緒環之参、一大蔵法教略要之図之下段、一十
 佛名之大事切紙、一臨終人問答、一遺戒之偈、一伝法偈三通、一
 御開山黒衣之由来、一四恩之参、一君公書、一身心脱落、一銀錢
 馬形之秘書、一十宗之弁別、一晦朔弦望之図切紙、一誰之図大
 事、一正法眼蔵血脈、一印形之血脈并参禅有
之三通、一二句之偈嗣書十通、
 一白山妙理之図并参禅、一三位三裏図、一五位別紙、一皇城廿一
 社巡礼之切紙、一七堂之図、一御開山嗣書切紙、一福田衣、一大
 善知識頂上了達切紙、一頂相之大事、一林際三句切紙、一洞山价
 尊像、一大陽真賛、一十智同真、一三宝印之大事二通、一参禅掃
 地之切紙二通、一無之切紙三通、一諸佛影像抜精之一紙、一銀相
 鎖子之切紙、一統松秘要、一三国流伝書、一三国流伝乾栗陀耶差
 別鉞切紙、一三国伝灯切紙、

参禅卷冊覚

- 一、秘参独則十六則 一卷
- 一、独則 一卷
- 一、永平秘伝参 一卷
- 一、永平独則参 一卷
- 一、永平秘伝書伝後参絹地也 一卷
- 一、大儀小儀 二卷
- 一、伝授作法 折本 一冊
- 一、参禅惣目録 一卷
- 一、三十四話抄参禅切紙 一冊
- 一、三十四話名目 一冊
- 一、三十四話抄 共 一冊

- 一、門 参
- 一、嗣書三段訣
- 一、正法眼蔵抜書
- 一、大白峰記
- 一、五葉集同抄
- 一、根脚抄
- 一、碧岩参禅
- 一、血脈起
- 一、嫡嗣伝授儀式
- 一、伝授古則秘伝書
- 一、法華八卷之秘参

(印)

(慧輪永明禪師)

(光紹智堂)

- 一冊
- 二冊
- 一冊
- 一冊
- 一冊
- 三冊
- 一卷
- 一卷
- 一卷
- 一冊
- 一卷

(印)

このような永光寺および永平寺所蔵の切紙目録とほぼ同様の目的をもって作成された切紙目録に、秋田県補陀寺所蔵の『古則参禅并切紙』と題する冊子の中に見られる百二十種の月泉派の切紙目録がある。その末尾の記載によれば、

当知目録百二十通、天童遺法、道元秘物、月泉法脈、古來相伝時移人替次第謹美求名聞故修魔禪而專好龜浮少用精細、古室門庭如是、要儀愁為早法、不欲見聞、遍落瀝濡廢棚下朽、余視斯廢、改思按割、紛失調加、破却補書、雖佗家事、由料簡能齊為一烈、以納匣裏、併乃澆季要此事等、其聲古賢吾門棟梁再來相見也、太奇乎、可尊可敬、可秘可秘云、

于時

正徳三曆中冬吉晨

中世曹洞宗切紙の分類試論(一)(石川)

奉修参禅切紙

羽州秋田府辺添川莊松原郷

龜蔵山補陀禅檐下三拜納焉⁽¹⁰⁾

とされるように、正徳三年(一七一三)、補陀寺に伝承された月泉派の切紙を整理し、補添して、後代の散逸を防ぐためにこれを校割帳とせんとした様子がうかがわれる。したがって、この補陀寺の『古則参禅并切紙』もやはり現存目録ということになる。さらに、標題がすべて四字に統一されているのも、後代の整理の跡を示している。目録の部分だけを掲げれば次の通りである。

空塵書試、日月和合、佛眼衆生、十重一心、自家訓訣、同訓訣
 図、一中重位、身心脱落、向去却來、嗣書燒却、嗣法次第、伝場
 作法、合血次第、勃陀勃地、約束并了、了畢印形、天竺一致、奥
 蔵、一紙、七佛血脈、三国伝灯、血脈封合、血脈袋記、衣鉢血脈、
 坐具切紙、鉢盂図相、三宝印参、数珠貫参、拂子切紙、竹篋参意、
 杖切紙、向上勘弁、鉄漢切紙、佛印加記、摩頂手参、哀老号
 位、和尚号参、山居嗣書、居士嗣書、居士規本、大姉号位、正法
 眼蔵、小蔵誰参、三物看経、坐禅切紙、八角磨盤、孝田切紙、永
 平置文、栄西記文、讓状七書、帰郷置文、須弥山図、三星図参、
 宝鏡三昧、靈山両鏡、大一儀参、頂門眼睛、命脈一点、大魔秘
 図、満字嗣書、悉曇字疏、祝聖切紙、一遍消災、佛頂尊勝、上来
 参話、住持勤行、香爐参意、問訊合掌、十三佛参、七堂切紙、露
 柱事参、四門三匝、龕前靈供、繞松切紙、転悪好日、佛智劍参、

首尾慎云爾

別腹符参、黙引導意、非人引導、火事落参、土葬参禪、知死期参、生死大事、下炬大事、輪廻化度、亡靈授戒、没後作僧、廟移切紙、安樂浄土、塔婆点眼、佛眼安座、慈悲心参、住吉五詫、龍天勘破、龍天授戒、白山切紙、鎮守参意、法皇授戒、二句偈参、一本劔参、三裏底参、拈華八勘、俱胝一指、五位圈児、四喝通位、石霜七去、宏智八句、五祖西来、牛過窓櫺、趙州一無、枕子話参、達磨廿字、五大老記、濟家一致、雲門宗戒、瀧仰宗戒、法眼宗戒、楊岐宗戒、浄土宗戒、不識上参、無端派参、

これらの目録のほか、切紙の全体がうかがわれる資料に、面山瑞方(一六八三〜一七六九)撰述の『洞上室内断紙棟非私記』がある。面山は室中所伝の切紙の殆んどを中世の代語者の妄談僻説と断じ、自ら作製した『洞上室内訓訣』⁽¹¹⁾以外はすべて否定する。『棟非私記』にとりあげられ、棟非に附されるべき切紙(面山は切紙を断紙と呼ぶ)として百四十五種を掲げるが、目録だけを掲げるなら、次のようなものである。

嗣書焼卻断紙、達磨大師知死期法断紙、龍天白山口伝並妙理図断紙、大陽卵形図断紙、三種神器断紙、摩頂大事断紙、鉄漢大事断紙、宗旨約束断紙、一枚紙角差断紙、最初伝法堪忍断紙、易名断紙、血脈宗旨断紙、六観音図断紙、五体五輪図断紙、頂門眼断紙、卍字断紙、位牌大事断紙、半紙大事断紙、大円相小円相断紙、宗門了畢断紙、念佛大事断紙、劔刃上断紙、命脈一点大事断紙、一中十位断紙、円伊円相図断紙、烏八白断紙、火事落断紙、大善知識頂上円満断紙、三宝印図断紙、禅林七堂図断紙、一遍消災咒断紙、月両箇断紙、鎮守図参断紙、鎮守白山断紙、牌前伝法

断紙、五位図断紙、阿誰話断紙、生死事大断紙、地獄指処断紙、趙州有無話断紙、即心即佛話断紙、宗旨松風断紙、三位図断紙、大魔境図断紙、香殿樹上断紙、牛過窓櫺話断紙、瑩和尚十二通断紙、大光柱大事断紙、死処地参断紙、石霜七去断紙、趙州独脱一路断紙、嗣書地参断紙、宏智八句偈二幅断紙、宗門五戒参断紙、嗣書口訣、伝戒嗣式三通、安産断紙、勃陀勃地説断紙、万機休罷断紙、洞山喫果話図断紙、知識葬儀断紙、三時諷経断紙、一遍消災咒断紙、楞嚴会断紙、参禅掃除断紙、曹洞機図断紙、拈華微笑図参断紙、女子別腹断紙、度懷胎亡者断紙、九識円備断紙、合封印作法断紙、合封打角断紙、度懷胎亡者参話断紙、靈鷲山図断紙、比丘尼断紙、十佛名科図断紙、付授国王大事断紙、普門品二偈血脈断紙、普門品二句偈相承断紙、観音大士伝佛心印大事断紙、二句偈修法断紙、伝授略式断紙、點眼安居法断紙、菩薩戒気血図断紙、日月星辰乾坤図断紙、大事上大事図断紙、佛祖正伝山居断紙、山居赦免様子断紙、山居図断紙、山居嗣書断紙、山居支証状断紙、法物断紙、天童真筆十二通断紙、空塵書、宝鏡三昧来由大事断紙、永平高祖報恩謝徳偈断紙、入佛安座作法断紙、居士断紙、白山勸請断紙、開光作法断紙、伝法付衣一枚儀断紙、易図相伝血脈断紙、過去七佛儀式注断紙、拜問正授戒断紙、入棺大事断紙、七佛大事参話断紙、七佛嗣書注断紙、大事上大事注断紙、永平和尚血脈道場儀式断紙、大姉嗣書断紙、大事管見断紙、大姉断紙、九條衣密伝断紙、頂相大事断紙、問訊合掌図断紙、伽藍神断紙、念佛大事断紙、七佛伝授断紙、伝授参断紙、換骨参禅断紙、馬祖七堂参断紙、大姉嗣書断紙、卍字参断紙、山居判形断紙、龍天護法善神本地断紙、曹洞八圈図断紙、三国伝来金斧鉗断

紙、天照大神授_二永平開山_一看經法、永平祖師願文、三十四話目錄
断紙、三十四話密用断紙、曹洞大事統松断紙、大姊断紙、安座点
眼断紙、龍天授戒断紙、住持焼香大事断紙、入棺断紙、下炬断紙、
拳鏢断紙、下炬参断紙、靈供参断紙、取名参断紙、〔曹全〕室
中一九七〜二一五頁〕

これに続いて面山は、「永平寺室中断紙目錄並引」と題し
て自らの体験を語り、

延享二年乙丑夏、余寓_二永平寺之承陽庵_一五十余日、請_二室中法宝_一
周覽、中有_二断紙一百四十余通_一、逐一拜読_二目錄_一以備_二後鑑_一、皆是
代語者之妄談僻説、而無_一一補_二於宗門_一者也、(同右、二一五)
二一六頁)

と記して、永平寺で調査した切紙類がすべて邪説であると
して否定し、次いで永平寺所蔵の切紙百四十種、及び『縁思
寂』⁽¹²⁾という書物一冊の標題を掲げる。百四十種の切紙につい
ては、順序は別にして、上記の光紹智堂の作成した目録と、
内容的には殆んど重複するので、ここでは引用しない。

以上見てきた目録類は、すべて近世江戸期の初期から中期
にかけての成立である。つまり、重ねて言うなら、これらの
切紙類の中には、中世以来伝統的に伝承されてきたものも含
まれるが、江戸期になって大量に出現する切紙類も多く含ま
れているということである。

ところで、ここに恐らく中世末頃、近世であったとして

も、ごく初期の頃に成立したとみられる、『仏家一大事夜話』
と題する、冊子本の切紙集成がある。現在、岐阜県竜泰寺に
所蔵されており、抄語、代語の問答体をもって内容を説き明
かすという参話の形をとっているが、明らかにその項目は切
紙である。次にその項目を掲げておく。⁽¹³⁾

勤行(三時ノ行事)、禪家ノ本尊、日中(祈禱)、日ノ晩ルノ行事、
(放散)、四時ノ坐禅、土地神、祖師堂、御影堂、鉢、小施餓鬼、
祝聖之参、鐘鼓之参、小開静ノ参、大開静(ノ参)、土地堂(ノ
参)、血脉参、命脈参、経教参、鉢ノ参、拄杖之参、扠子之参、
楊枝之参、(普通問訊)、五六六蘊参、鬚髮参、飄袖参、手巾参、
襪子参、履ノ参、複子参、傘参、草鞋、四大五蘊、安坐点眼、靈
供参、亦靈供、襪子参、竜天参、廿一社順礼参、没后作僧参、
中陰破壇参、隔国吊亡靈参、吉方勸請参、悪日連続参、塔婆書后
点眼参、塔婆参、念誦参、竜天参、頂眼参、持戒参、宗旨鸞鷲
参、香炉ノ参、坐具参、宗門船参、鎮守之参、白山参、竜天参、
念誦参、理趣分参、十三仏参(第一不動、第二釈迦、第三文殊ノ
境界、第四普賢ノ境界、第五地藏、第六弥勒ノ境界、第七薬師ノ
本体、第八観音ノ全体、第九勢至本体、第十阿弥陀本体、第十一
阿闍仏ノ心、第十二大日ノ全身、第十三虚空蔵)

この六十種からなる切紙の集成は、極めて興味深い内容を
具えており、いずれ全文を翻刻するつもりであるが、これら
の項目を上記の江戸期の切紙集成と比較してみると、著るし
く項目数に異動があることに気がつく。このことを見るため
には、数多くの切紙類を分類整理する必要が生じてくるの

で、次にこの点に関してみてみる。

三、切紙の分類について

すでに述べたように、曹洞宗における切紙研究の先駆をなすものは、杉本俊竜師の『洞上室内切紙并参話研究』であり、そこには百三十五種の切紙が引用されて解説が加えられているが、テキストそのものがどこの所蔵で、いかなる伝承をもつものかについては、全く触れられていない。そうした書誌的手続を全くふんでいないので、資料調査を主体とした批判的本格的な切紙研究は、全く今後の課題であるといつてよい。同書はまた、切紙の分類についても触れ、一行持部、二点眼部、三送亡部、四血脈部、五嗣法部、六口訣部、七参話部、八加持部、九雜纂部の九部に分類整理しているが、この分類についても、たとえば雜纂部というものをどのよう位置付けるか等も含めて、もう少し検討してみる必要があるらうと思われる。筆者も切紙分類整理の作業上の必要にせまられて、その形態や機能を考慮して、一つの試論として、一叢林行事、二行覆物、三堂塔・伽藍、四仏・菩薩、五追善・葬送供養、六室内(嗣法・三物・血脈)、七参話(宗旨・公案・口訣)、八儀礼、九咒術・祈禱、十神仏習合、十一吉凶・卜占の十一種類に分類してみた。この分類が妥当なものであるかどうかは今後の課題であるが、少くとも雑部というものを立てず、

すべての切紙をなんらかの形で位置付けるという意味での一試論としての意味はあろう。

さて、この十一種の分類項目によって上記の切紙目録を分類してみると、次の表のようになる。(便宜上、ここでは内容が判明する『佛家一大事夜話』『永平寺切紙目録』『揀非私記』の三者の比較にとどめる)

分類項目	佛家一大事夜話	永平寺切紙目録	揀非私記
1 叢林行事	10	1	1
2 行履物	18	2	11
3 堂塔・伽藍	3	1	1
4 仏・菩薩	2	2	6
5 追善・葬送供養	4	2	3
6 室内(嗣法・三物・血脈)	2	35	41
7 参話(宗旨・公案・口訣)	8	70	81
8 儀礼	6	21	14
9 咒術・祈禱	1	2	2
10 神佛習合	4	8	5
11 吉凶・卜占	2	1	1

この図表をみてまず感じられることは、『佛家一大事夜話』に対して他の二者が全く対照的な差異を示していることである。第一に『佛家一大事夜話』ではほぼその半数を占める叢林行事や行履物に関していえば、『永平寺切紙』や『揀非私記』は明らかに激減しており、ある意味での寺院の世俗化の進展

とも受けとれる。逆に、『仏家一大事夜話』では少なかつた室内に関する項目が激増しているのは、室内儀軌が整備されたことを意味するともとれるが、室内の問題が儀礼化してしまつたことの意にも解釈し得る。また参話の項目も著るしい増加をみせているが、これは門参の切紙化の動向を意味するものかもしれない。中世に於ては、たとえば「月両箇話」などの若干の重要な参話が切紙の形で伝えられたが、それ以外は室内参禅は門参がそのすべてであつた。室内の儀礼化が進むにしたがつて、参禅にも儀礼化の傾向が生じたのかもしれない。

このような表によつてその変遷や動向を推測する場合に注意しなければならないことは、さらに年代的に確かなものを設定して、一定期間毎にみていかなければならないことであり、上記のような資料だけでは不十分な点もあるが、今回は切紙というものの全体像を把握するという意味で、目録類を中心にもってきた。次回からは右に立てた分類項目を中心として、具体的なものを選び出し、考察を加えていくことにする。

〔注〕

- (1) 拙稿「中世禅宗史研究と禅籍抄物資料」(『飯田利行博士古稀記念 東洋学論叢』所収、昭和五十六年一月、国書刊行会刊)。
- (2) 拙稿「中世禅宗教団の展開と禅籍抄物資料」(『仏教の歴史的展開にみる諸形態』所収、昭和五十六年五月、創文社刊)。

中世曹洞宗切紙の分類試論(一)(石川)

(3) 金田弘『洞門抄物と国語研究』(昭和五十一年十一月、桜楓社刊)参照。

(4) 『曹洞宗全書』(拾遺)には「日域曹洞室内嫡嫡秘伝密法切紙」として「加州松樹林大乘護国禅寺室内密伝切紙」百三十一種が掲載されているが、原本となつたものは、明治十八年(一八八五)書写伝授相承のものである。

(5) 杉本俊竜『洞上室内切紙并参話研究』(昭和十三年七月、滴禅会刊)。

(6) 「(永光寺) 截紙之目録」および永光寺切紙については、国学院大学教授金田弘先生の資料提供を受けた。ここに記して深く感謝いたします。

(7) 門参資料と切紙資料の関係についてすでに論じたものに、拙稿「中世曹洞宗における切紙相承について」(『印度学仏教学研究』三十卷二号、昭和五十七年三月)がある。

(8) 拙稿「永平寺秘密頂王三昧記」再考」(『駒沢大学仏教学部論集』十二号、昭和五十六年十月)参照。

(9) 『吉祥山永平禅寺総目録』は、慶長十一年(一六〇六)八月二十三日、十九世祚球から、二十二世祚天に与えられた祚球自筆本を、元和九年(一六二三)十月十八日に鎮徳寺住持雪庵宝積が筆写したもので、現在は永平寺に所蔵されている。『永平寺史』(昭和五十七年九月、永平寺蔵版)五三八頁参照。

(10) 補陀寺所蔵の『古則参禅并切紙』は、東京大学史料編纂所蔵の書写本によつた。

(11) 面山が『洞上室内訓訣 附室中口訣諸式十四條』で自ら選択した口

訣とは、勃陀勃地訓訣、押三宝印訓訣、灑水口訣、仏祖血脈訓訣、小狐訓訣、合掌訓訣、金剛合掌訓訣、朔望祝聖用心訣、誦一遍消災咒訓訣、仏菩薩点眼安座略作法、聖像撥遣訓訣、諸供養訓訣、送亡訓訣、祈雨法、移墓法、葬尊宿法、葬癩病死法、立卵塔法、鎮亡靈現形法、鎮墓焼法、救難産法、三衣法、鉢盂法、禮拜法、三時諷経口訣、楞嚴会法、女子別腹法の二十七種である(『曹全』室中、一五九―一六六頁)。

(12) 『縁思寂』という書名については全く不明であるが、『棟非私記』の「右太陽付浮山書芙蓉道楷序妄作之書也」(『曹全』室中、二一八頁)という割注から判断するなら、太陽警玄と投子義青の代付の問題に関する書と思われる。

(13) 岐阜県竜泰寺所蔵の『佛家一大事夜話』については、すでに内容は紹介したことがある。拙稿「美濃国竜泰寺所蔵の門参資料について(上)」(『駒沢大学仏教学部研究紀要』三十七号、昭和五十四年三月)参照。